

事務事業評価表(既存事業)

コード 4-2-4	事務事業名 街なかサロン事業	所管部課 市民生活部産業振興課
--------------	-------------------	--------------------

事務事業の概要	事務事業の目的 商業者と生活者が自由に話し合える場を設定し、商業者と生活者によるパートナーシップに基づいた商店街づくり・まちづくりを促進する。	総合計画上の位置づけ (政策)活力と魅力あるまちづくり (施策)産業の振興(活1-1) (主要施策)商店街振興プランの推進
	実施内容、実施方法 商店街内のコーナーや店先のベンチの設置など商業者や商店街ができることからはじめ、来街者(商店街に訪れる人)や生活者が気軽に訪れることのできるサロンを整備する。	根拠法令等 西東京市商工会補助金交付要綱
	事業開始時期 平成 16 年度	実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )

評価指標の設定	活動指標名 開設数	活動指標の考え方(定義) サロンの開設数
	成果指標名 利用者数	成果指標の考え方(定義) サロンを訪れた来街者や生活者数

		単位	14年度	15年度	16年度	17年度	
事務事業データ	事業費(A)		0	0	920	1,100	
	国庫支出金	千円					
	都支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源				920	1,100	
	所要人員(B)	人		0.10	0.10	0.10	
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	0	827	833	833	
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	0	827	1,753	1,933	
	単位当たりコスト (E)=(D)/(開設数)	千円	0	0	1,753		
	歳入	千円					
	活動指標	目標値	箇所			2	2
		実績値	箇所			1	
	活動指標	目標値					
実績値							
成果指標	目標値	人					
	実績値	人			1,333		
成果指標	目標値						
	実績値						

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	(サロンに配置した)自由帳に記載された感想によると、好評であった。
	国・都・他市・民間等 における類似事業	不明
	運営上の制約条件・ 外部要因等	商店街内の空き店舗等にサロンを開設する場合に、建物の構造が住居と店舗を兼ねている場合が多く、不特定多数の人に利用されるというサロンの性質から、建物所有者が躊躇することが多い。

コード 4-2-4	事務事業名 街なかサロン事業	所管部課 市民生活部産業振興課
--------------	-------------------	--------------------

項目	評価結果	判断理由、説明等
事業所管部評価	実績 <input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	自由帳に記載された感想から、商業者と来街者、生活者が自由に話し合える場を設定することにより、相互理解が図れたと言える。
	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 増大 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	活力ある商店街の増加のためには、来街者、生活者の多様で変化するニーズを的確に捉え、求められる業態・商品・サービスの開発・提供を行っていくことが重要である。そのためには、自由に議論できる場を確保できるよう支援を行う必要性は大きい。
	効率性 <input type="checkbox"/> 大きく改善 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	事務効率上、滞りなく行われており、特に問題はない。
	公平性 <input type="checkbox"/> より充実 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	新規開設の決定にあたっては、全商店街に募集を行っている。
	総合評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	実績・必要性・効率性・公平性のいずれの観点から見ても、継続実施する必要がある。

17年度における改善点	サロンが将来的に常設になるために、生活者にサロンの運営に参画してもらう等、商店街に負担にならない運営方法について、検討する。
-------------	--

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

評価の視点

- 実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など
- 必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など
- 効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など
- 公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など
- 総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。
  - 拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。
  - 継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。
  - 改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。
  - 抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。
  - 廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。